

Economic Indicators

発表日: 2021年5月7日(金)

一般会計税収(2021年3月末)

～回復感は乏しい～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 星野 卓也 (TEL: 03-5221-4547)

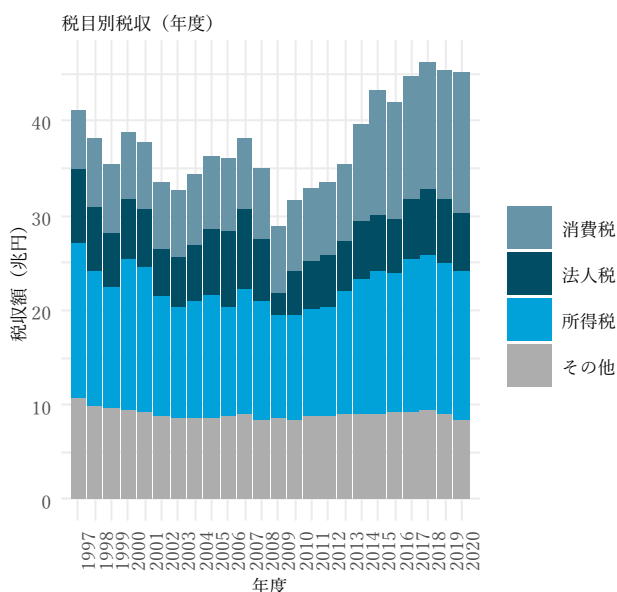
低迷する「除く消費税」

財務省の公表した2020年4月から2021年3月末までの一般会計税収(累計値)は45.0兆円と、前年同時期の45.3兆円から減少した(前年比▲0.7%)。税目別にみると、所得税が15.9兆円(同▲0.5%)、法人税は6.1兆円(同▲12.1%)、消費税は14.8兆円(同+9.9%)となった。消費税率引き上げ(2019年10月:8%→10%)によって消費税収が増加する一方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う企業利益の減少を映じて法人税が大きく減少し、税収全体でも減少している。季節調整値でも「除く消費税」の値が低迷しており、回復感は乏しい(資料2)。

政府が昨年末に作成した20年度の税収見込みは55.1兆円とされている。所得税収が踏みとどまっている点などからここから大幅に乖離することは想定していないが、2021年1-3月期の経済活動は緊急事態宣言発令で低迷しており、下振れリスクがあろう。また、その先の回復力も乏しいだろう。現在発令中の3度目の緊急事態宣言やワクチン接種の遅れが経済活動の回復を鈍らせることに加え、所得税では春闘の不振にみられる賃金低迷が後を引く。経済活動が回復しても、法人税は繰越欠損金の仕組みで損失が繰り越され、経済の回復見合いで税収が回復しにくい状態が続く。21年度の税収の回復は緩慢だろう。

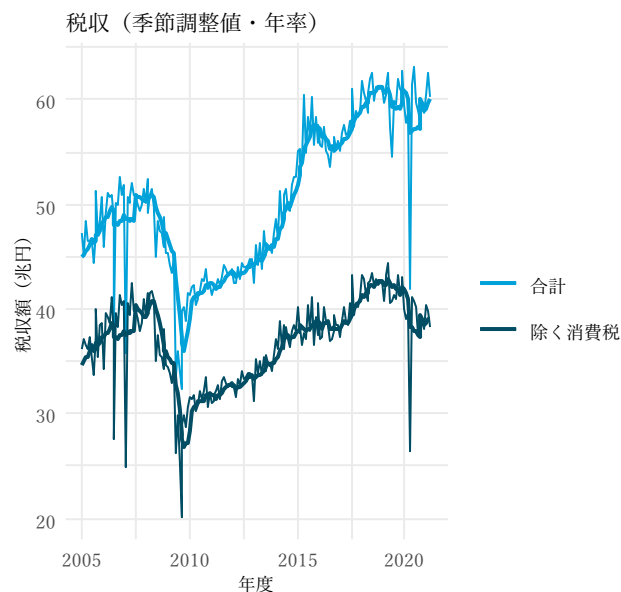
なお、平時であれば、来月の4月分の結果で所得税収がおおむね確定する。しかし、今年は昨年同様に感染防止策として確定申告の期限が通常時の3月から4月に延期されたため、所得税収額も7月公表の5月分(決算)まではわからない。20年度の税収額の全容がわかるのはまだ先になる。

資料1. 税収(2021年3月末時点累計値)



(資料1出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

資料2. 税収(季節調整値・年率)の推移



(資料2出所) 同左。季節調整値は筆者。太線は6ヶ月移動平均。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。